

2025 vs 2026：知財情報フェアにみる商標実務の進化 — AIの「登場」から「実装」へ

2026年の商標分野は、2025年に登場したAI検索・監視サービスを土台としつつ、それを「いかに実務で使える形に整えるか」に焦点が移りました。単なる技術の紹介から、判断根拠の提示、社内外のワークフロー統合、そして経営貢献へと、より具体的で実践的な展示・発表が目立っています。

2025: AIの「登場」と試行

検索・分析の深化：スピードから



AIは「候補を探す」
類似検索の適さだけでなく、
識別力の極대화やリスクの判断
根拠を提示する機能が具体化。



190カ国以上の世界監視と
専門家レポートの融合
広範なAI監視に弁理士の評価
を加え、対応の優先順位を明確
にするサービスが定着。



2026: AIの「実装」と統合

検索・分析の深化：「判断根拠」へ



AIは「リスクを評価する」
段階へ



商標点検のタイミングが
「制作・発信前」へ拡大
Japioの「商標スキャナー」に
代表される、リリース前の文章
から商標を検出する仕組みが
登場。

業務フローの統合：部門間連携 と経営への接続



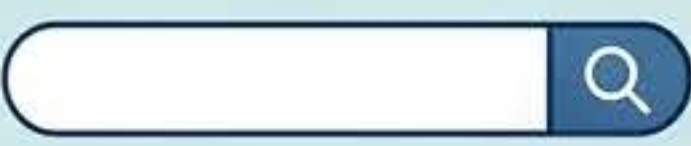
知財・事業部・代理人を結ぶ
デジタルワークフロー
申請・承認や役割分担をシステム上で完結
させ、商標調査工数を最大50～70%削減
した事例も。

業務フローの統合：部門間連携と



経営貢献の「理念」
2025年のブランド経営論から、
2026年はKPI設定や権利の棚卸
しといった実務レベルへ進展。



比較項目	2025年の傾向	2026年の進化	実行効の進化
AIの役割	 AIの役割	 AI検索・生成機能の 登場と試行	 判断根拠の提示、 既存業務への組み込み
業務の範囲	 業務の範囲	 専門検索	 事業部門との連携、 制作物の事前点検
ブランド保護	 ブランド保護	 検知化	 証拠収集・優先順位付け・ 真贋判定の統合